

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

池田 健太郎 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目

Safety and Efficacy of Catheter Ablation for Pediatric Ventricular Tachyarrhythmia

（小児心室性頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションの有効性と安全性）

THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 2017:67:287-290

Kentaro Ikeda, Takumi Takizawa, Shigeto Naito, Kohki Nakamura, Takehito Sasaki,
Koji Kumagai, Tomio Kobayashi, and Hirokazu Arakawa

論文の要旨及び判定理由

小児心室性頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションの適応はまだ定まっていない。本研究は心室性頻脈性不整脈に対しカテーテルアブレーションを施行した小児例を後方視的に検討することで有効性と安全性の評価を行うことを目的として行った。2006年3月から2014年12月までに群馬県立心臓血管センターにおいて心室性不整脈に対しカテーテルアブレーションを施行した15歳以下の連続29例を後方視的に検討した。初回アブレーションの成功率は83%(24/29)、再施行を含めた全体での成功率は93%(27/29)であり、重大な合併症は認めなかった。効果を認めなかった2例は、成人例でも治療が難しい左心起源とHis束近傍起源であった。この成績は成人と比較しても劣るものでなく、小児心室性頻脈性不整脈の治療としてカテーテルアブレーションは適応となりうると考えられた。

この研究は小児心室性頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療に関する新たな知見と認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（平成30年2月1日）

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任 倉 林 正 彦 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野担任 近 松 一 朗 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
法医学分野担任 小 湊 慶 彦 印

参考論文

なし

（様式6, 2頁目）

最終試験の結果の要旨

小児心室性不整脈に対する治療法についておよび小児PVC/VTの長期予後について
試問し満足すべき解答を得た。

（平成30年2月1日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）

小児科学分野担任

石 崎 泰 樹

印

群馬大学教授（医学系研究科）

循環器内科学分野担任

倉 林 正 彦

印

試験科目

主専攻分野

小児科学

A

副専攻分野

循環器内科学

A